

The forest is longing for the sea, the sea is longing for the forest.

# NPO法人 森は海の恋人



「森は海の恋人運動」は、「豊かな海を守るため、漁師と川の流域に暮らす人々が共に山に木を植える活動」として24年前に始まりました。我々の活動の原点は、人々の生活と自然の繋がりを一人でも多くの方に伝えることです。

## 豊かな天然の良港 ～気仙沼～

気仙沼湾は三陸リアス式海岸の中央に位置する波静かな天恵の良湾です。カツオの水揚量は日本一を誇るなど、古くから近海、遠洋漁業の基地として栄えてきました。波静かな入り江は養殖漁場としても優れており、近年ではカキ、ワカメやホタテなどの養殖が盛んに行われています。

## 自然環境の汚染と影響

しかし、昭和40年～50年代にかけて気仙沼湾の環境は悪化しました。赤潮が発生し湾内はまるで醤油を流したような茶色の海となったのです。

赤潮プランクトンを吸ったカキの身は赤くなり、「血カキ」と名付けられ、全く売り物にならず廃棄処分されました。

原因は水産加工場から垂れ流される污水、一般家庭からの雑排水、手入れのされていない針葉樹林からの赤土流出など、多岐に渡っていました。また、縦割行政と呼ばれる行政システムでは、森・川・海を別々のものとして捉えていたため、気仙沼湾に森の養分を運ぶ大川の河口から僅か8キロ地点で、ダム建設計画まで持ち上がっていました。我々の誇りとしてきた豊かな海が、大きな危機に直面したのです。

## 「牡蠣の森を慕う会」の結成、そしてNPO法人の設立

牡蠣の漁場は世界中、川が海に注ぐ汽水域に形成されています。川が運ぶ森の養分がカキの餌となる植物プランクトンを育てているからです。

そこで、川の流域に暮らす人々と、価値観を共有しなければ、豊かな海は帰ってこないことを悟りました。

「大川上流の室根山に自然界の母である落葉広葉樹の森を創ろう」そこで集まった仲間が「牡蠣の森を慕う会」が作られたのです。平成元年から植樹祭が続けられ、これまで約3万本の落葉広葉樹の植樹が行われました。

また、川の流域に暮らす子供たちへの環境教育の重要性を感じ、平成2年から体験学習を開始しました。今まで招いた子供たちは、10,000人を超えます。現在、森は海の恋人運動は、小・中学校の教科書でも取り上げられ、全国に広がっています。

自然と調和した生活を形成していくには、多くの人々が共通意識を持っていなければなりません。NPO法人森は海の恋人は、自然と人々の繋がりに気付く大切さを多くの人々に広めるべく、平成21年に新たに設立されました。

## 活動の展開

NPO法人森は海の恋人は、豊かな自然環境の中で人と自然のつながりを体験的に学習できる環境教育を主軸に、森づくり、自然環境保全といった3分野の事業を展開する団体です。

環境教育事業では、次世代を担う子ども達のための宿泊型体験学習（『森は海の恋人子どもスクール』）などを実施し、多くの子ども達に自然を感じ、自然を知る機会を提供しています。

またこうした素晴らしい自然環境を未来の子供たちに手渡していくことを目的に、自然環境保全事業として各種の自然環境調査を行い、その結果をもとに自然と共生するまちづくりについて提言を行っています。

しかし、こうした活動は我々の力だけで作り上げられるものではありません。全国の会員の皆様からのサポートや、意識を共有して下さる方々の様々な行動によって成り立っているのです。忙しい日々の中、ふとした瞬間にでも、自然の繋がりに「森は海の恋人」に心を寄せて頂ければ幸いです。

## 皆さまのご支援・ご協力をお待ちしております！

### 未来に向けて

東日本大震災以降、地域の状況は一変しました。巨大津波の直後、生き物は消え、海は死んだものと皆が思いました。しかし今、多くの生き物たちが大変な勢いで戻り始めています。こうした生き物の力強さと、全国の皆様からのご支援に支えられ、NPO法人森は海の恋人は事業を再開することができました。わずかばかりではありますが、体験学習も少しずつ再開しています。あれほどの被害からも立ち直ることができる生き物たちの強さと尊さを子ども達に伝えるとともに、地域の方たちと協力し、多くの専門家のご協力を得ながら、新たな地域づくりにも取り組んでいきたいと考えています。どうぞこれからも応援よろしくお願い致します！

